

AMED認知症研究開発事業

「BPSDケアレジ研究とJ-BIRD-PNBにおける非生物学的情報収集項目決定と質管理」

在宅介護家族が活用するBPSD対応法集を踏まえた動画を製作

目的

本研究は、血液バイオマーカーと神経画像検査によるBPSD生物学的基盤の解明、および認知症者の層別化に基づいたBPSDケア・介入手法の開発研究(以下、開発研究)(研究代表者:数井裕光)の分担研究として実施する研究である。開発研究では、コホート研究により、神経画像検査と血液バイオマーカー検査とを用いて、BPSDの生物学的基盤を明らかにし、さらにこれらの検査結果とBPSDに対して適切とされている対応法による改善率との関係を明らかにする。本研究では、開発研究で収集するBPSDのデータから非生物学的要因を極力排除するために調査対象となる**認知症の人の介護者が活用する「実生活場面でケアする人が使用可能な具体的な対応法集」を開発することを目的**としている。令和5年度は研究3年目であり、これまで作成した対応法集を踏まえた、動画制作を行った。

概要

主な事業内容

- ①これまで製作した対応法集の内容等について、認知症の人の介護家族に閲覧を求め意見を収集した。動画制作に際しての意見も併せて収集した。
- ②意見収集の結果を踏まえて、No.1同じことを何度も聞いたり、言ったりする。No.6些細なことで怒るについて、動画の試案政策を行った。

主な事業結果・成果

結果

- No.1同じことを何度も聞いたり、言ったりする。(2m09s)(図1)、② No.6些細なことで怒る(2m08s)の動画をそれぞれ製作した。研究期間終了後一般に公表予定



図1-1 同じことを何度も聞いたり、言ったりする(抜粋)



図2-1些細なことで怒る(抜粋)



図1-2 同じことを何度も聞いたり、言ったりする(抜粋)



図2-2些細なことで怒る(抜粋)